

第2章．ケーススタディ調査の取りまとめ指針

1．地域の知の拠点再生による地域活性化プロセスの検討

(1) ケーススタディ調査の視点

- ケーススタディ調査では、地域の声（地域の課題解決や要望）に基づき、大学等の教育・研究成果・人材（以下、「大学等の知識・人材資源」という。）を、産業やまちづくりなどの実際の活動に着実に結びつけ、地域雇用の創出に寄与していくための方策を検討することに重点を置く。

(2) ケーススタディ調査の取りまとめの方向性

- 上記の目的を果たすためには、大学等の知識・人材資源が、いかなる過程の中で地域の雇用創出につながっていくのか、その過程の中で、いかなる組織や団体が連携し、いかなる役割を担い、発揮していくのかといった、地域の雇用創出、地域活性化に向けた地域の知の拠点再生のプロセスを明らかにしていくことが必要であると考える。
- 地域の知の拠点を活用した地域活性化が円滑に推進できる要因として、次頁に掲げるような展開プロセスが実践されていると考え、ケーススタディ調査の中で、その実態や実践にあたっての課題を抽出する。

2．地域の知の拠点再生による地域活性化プロセス（仮説）

(1) 大学等の諸研究と、地域活性化に向けたテーマとを結びつけるキーパーソンや連携組織が存在

- 地域の大学等の知識・人材資源を活用し、地域活性化につなげるためには地域と大学等との情報交換や地域活性化に向けた意思決定を行う連携組織、大学等の研究・技術や人材をシーズとして発掘し、地域活性化につなげる働きかけを行うキーパーソンや組織が存在することが考えられる。

(2) 大学等の研究・技術・人材の活用方策を検討する諸団体（受け皿組織）が地域内に存在

- 大学等の知識・人材資源をいかに活用し、地域活性化につなげていくのかについて、大学等や行政のみではなく、地域で活動する諸団体（例えば、農林水産業にかかわる諸団体、製造等を行う諸団体、観光等のサービス分野を行う団体、市民団体やNPO等の地域づくりを担う団体）と連携をしながら検討していくことが重要であると考える。
- また、これら地域で活動する諸団体は、大学等の研究成果を商品開発に結びつける実験を行ったり、販路開拓の調査を実施したりするなどの受け皿組織として期待できる。

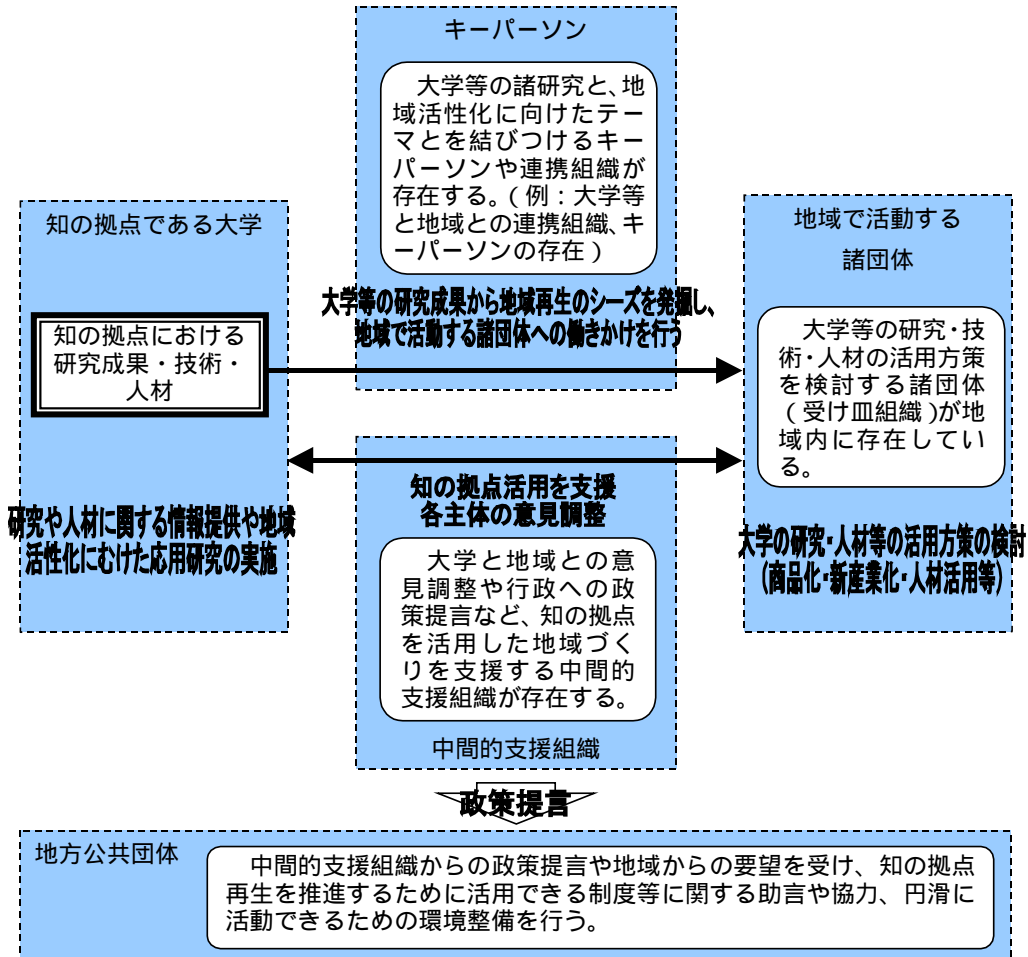
(3) 地域の知の拠点を活用した地域づくりを支援する組織（中間的支援組織）が存在

- (2) で挙げた地域で活動する諸団体は、地域個別の課題や専門的な分野に対して課題を解決する能力を有しているが、地域全体の活性化を推進していくためには、地域の問題を熟知し、様々な専門分野にも長けたトータルマネジメントが重要となってくる。このトータルマネジメントを行う組織は、大学等と地域で活動する諸団体との中間的な位置にあり、大学等や各地域活動諸団体との意見調整や情報等の提供、大学等による地域活性化に寄与する取組を支援する地方公共団体への提言を行う組織（以下、「中間的支援組織（4）」という。）として期待できる。

(4) 地方公共団体は、地域の知の拠点再生を推進するために活用できる制度等に関する助言や協力、円滑に活動できるための環境整備を実施

- 地域の知の拠点再生に向けて、地方公共団体は、大学等を地域づくりのパートナーとして捉え活用していくことが、地域活性化に不可欠と認識し、積極的にこれら取組に対して支援していくことが期待される。
- 支援内容としては、地域の知の拠点再生を推進するために活動できる制度等に関する助言や協力、活動を推進するための環境整備などが考えられる。

図表 2-1 . 地域の知の拠点再生による地域活性化のためのプロセス図



3. ケーススタディ調査の指針（調査の取りまとめイメージ）

地域の知の拠点を活用した地域の雇用創出に向けては、大学等と地方公共団体のみの連携ではなく、様々な組織や団体（大学等の諸研究と地域活性化のテーマとを結びつける組織、地域で活動する諸団体、地域の知の拠点活用に向けた取組を支援する中間的支援組織、地方公共団体等）が、地域の雇用創出に向けた各段階での役割を担うことが重要であり、国はこれら諸団体の活動を支援することが重要であるとする。

したがって、地域の知の拠点再生による地域活性化プロセス（仮説）に基づき、以下のようにケーススタディ調査を取りまとめる。

（1）調査発案の背景となる地域の現状や課題

調査地区の概要

調査地区における地域経済活動や雇用状況に関する実態

地域の雇用創出に向けた課題と地域活性化のテーマ

（2）地域活性化のテーマに関連する取組の現状

官や民の取組の現状

地域活性化のテーマを解決すべく大学等の既往研究・人材等の現状

（3）調査の目的と調査内容

調査の目的

調査の内容及び方法

調査実施の体制と役割

調査概要と結果

（4）地域の知の拠点活用による地域雇用創出に向けた道筋

大学等の研究等を活用した地域雇用創出に向けた道筋

地域雇用創出に向けた地域と大学等との連携のプレイヤー

地域の知の拠点再生による地域活性化プロセスの検討

前述の「地域の知の拠点再生による地域活性化プロセス」における考え方を参考に、以下のあり方について検討する。

ア）大学等の諸研究と、地域活性化に向けたテーマとを結びつけるキーパーソン

イ）大学等の研究・技術・人材の活用方策を検討する地域で活動する諸団体

ウ）地域の知の拠点活用による地域雇用創出を支援する組織（中間的支援組織）

エ）地域の知の拠点活用による地域雇用創出に向けての行政の役割

オ）その他